

# もっしボートレースを PROPEL

特集

## ボートレースの魅力を伝える人々

ボートレーサーに秘められた人間ドラマ

観る！食べる！遊ぶ！誰もが楽しめるテーマパーク

夕日やナイター照明の光を受けてきらめく水しぶき

水面で競い合うカラフルな6艇のボート

02 特集  
ボートレースの  
魅力を伝える人々

04 ボートレーサーに秘められた  
人間ドラマ

06 観る! 食べる! 遊ぶ!  
誰もが楽しめるテーマパーク

08 夕日やナイター照明の光を受けて  
きらめく水しぶき

09 水面で競い合う  
カラフルな6艇のボート

10 **HOPE!**  
無限の可能性を秘めた  
スター候補

松田祐季選手 × 植木通彦氏  
(登録番号第4391号・福井)

14 ボートレースを支える  
プロフェッショナル

第5回  
日本モーターボート競走会  
あっせん業務

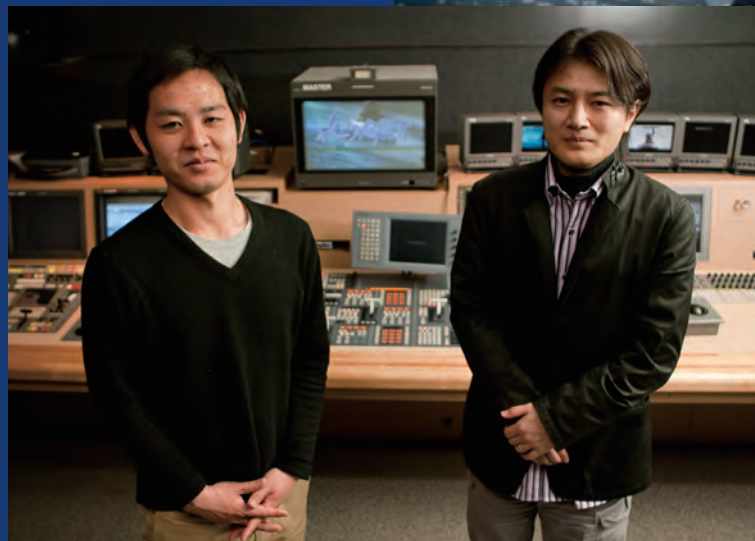
【プロペル】  
**PROpel**

ボートレース広報誌「PROpel」は、  
みんなに楽しんでいただけるボートレースの  
実現に向けた関係者の姿と、社会の様々な分野での  
貢献の様子を紹介していきます。

特集

# ボートレースの魅力伝える人々

ボートレースの魅力はボートレース場でじかに  
感じていただくほかにも、様々なメディアを通じ  
て一般のお客さまに伝えられています。そこには、  
ボートレースに共感や感動を覚えた伝える側の  
人々ならではの思いが込められており、ボート  
レースの様々な魅力を再発見することができます。  
今回は、テレビ、雑誌、写真、広告の制作を担うプ  
ロフェッショナルの目から見たボートレースの  
魅力をご紹介します。



「水上のアスリート」の  
素顔に迫る

ドキュメンタリー番組「水上の挑戦者」制作

(株)ドリマックス・テレビジョン  
プロデューサー 小杉康夫さん(右)  
ディレクター 根本教彦さん(左)



“テーマパーク”としての  
魅力を伝える

観光情報誌「るるぶ」(JTBパブリッシング発行)編集

(株)JTBパブリッシング メディアコミュニケーション部  
メディアプロモーション課 担当課長 千葉和子さん



疾走する  
ボートの一瞬を  
切り取る

2011年BOAT RACE  
カレンダー撮影

スポーツカメラマン 高須力さん



新しい  
ボートレースファンを  
増やす

2011年BOAT RACE CM制作

(株)朝日広告社 クリエイティブ第一局  
クリエイティブディレクター 小沼恭司さん

# ボートレーサーに秘められた人間ドラマ

レース本番に臨む真剣な表情やプライベートの様子など、普段は見られないボートレーサーの素顔に迫るドキュメンタリー番組「水上の挑戦者」。経験豊富なベテランレーサーから期待の若手レーサーまで、毎回様々なボートレーサーが登場しています。2007年の放送開始時から番組制作を続けている小杉康夫さん、根本教彦さんに取材を通して感じたボートレーサーの魅力を語っていただきました。

## ドキュメンタリー番組「水上の挑戦者」制作

(株)ドリマックス・テレビジョン  
 プロデューサー 小杉康夫さん (写真上)  
 ディレクター 根本教彦さん (写真下)

## 初めて知ったボートレース 「これこそスポーツだ！」

「ボートレーサーが一走一走に込める思いをどう伝えるか、それが『水上の挑戦者』という番組のテーマです」。そう話すのは、番組制作を担う(株)ドリマックス・テレビジョンの根本教彦さん。ディレクターとして全国を飛び回り、日々ボートレーサーの取材にあたっています。

ボートレーサーの素顔に迫るドキュメンタリー番組「水上の挑戦者」は2007年に放送が始まりましたが、プロデューサーを務める同社の小杉康夫さんによると、番組誕生のきっかけは、たまたま見たドキュメンタリー番組だったそうです。「私はボートレースとは無縁の世界にいましたが、ある時、女子レーサーを追ったドキュメンタリー番組を観て思わず引き込まれました。こんな世界があるのかと。これはまさしくスポーツだと直感しました」。そして、ボートレーサーに秘められた人間ドラマを題材としてぜひとも取り上げたいと思った小杉さんは、その素顔に迫る番組企画を練って社内でのプロデューサー会議にかけました。その後度重なる検討を経て番組コンセプトが固まり、2007年5月、「水上の挑戦者」は産声を上げました。「約1,500人というボートレーサーそれぞれに、どのような人間ドラマが秘められているのか、それを想像すると気持ちが高ぶらずにはいられませんでした」と、小杉さんは当時のことを嬉しそうに振り返ります。



## 人生のすべてをかけて レースに臨むボートレーサー

番組制作がスタートし、初めて接したボートレーサーの日常。それは予想をはるかに超越したものでした。根本さんはボートレーサーがここまで厳格な生活を送っているとは思っていませんでした。「日々のプロペラ調整や減量のための食事管理は当たり前。休日に我が子の相手をしたくても、その気持ちをグッと抑えてプロペラを叩き続けるなど、一切の妥協をせずに自分を追い込んでいるんです」と根本さん。小杉さんもボートレーサーのプロ意識の高さに驚いたそうで、「スティックと言ってしまえば平凡に聞こえるかもしれませんが、その一言に尽きます。まさに人生のすべてをかけてレースに臨んでいます」と熱く語ります。

ボートレーサーは性格も考え方も人それぞれですが、彼らは共通する目的意識を持っていると根本さんは感じています。「ボートレーサーは、はっきりと2種類の目標を持っています。まず、いつか叶えたい夢のような長期的な目標。そしてそれを達成するために必要なステップとしての日々の目標です。ボートレーサーは、この身近な目標に対する意識が非常に強く、いわば毎日が目標との戦いです」と力を込めて語ります。

## 一流アスリートも驚く ボートレーサーのプロ意識

レースの勝利に向かって真剣に取り組むボートレーサーたち。その魅力を様々な角度から伝えるために、番組ではボートレーサーの日常生活を丹念に取材しています。根本さんは、「プライベート取材では、ボートレーサーが普段見せない表情を見せてくれますし、スタッフとの精神的な距離も縮まります。より深い話を聞けることが番組制作上大いに役立ちます」と、その意義を話します。

また、番組では最近、野球や格闘技など、他競技で活躍したスポーツ選手を招いて、ボートレーサーと対談してもらう手法を取り入れました。「一つの道を極めたアスリート同士にしか分からないことがあるはず。プロフェッショナルとしてお互いの共通点を感じることで、さらに奥底にある思いを引き出せるのではないかと考えました。ゲストに呼ぶ一流のアスリートも、ボートレーサーのプロ意識の凄まじさに驚くことがよくあ

ります」と、小杉さんはその意図を話します。実際に、対談を通じて自身がスランプに陥っていた過去を正直に吐露してくれたケースもあったそうです。

## ボートレーサーを知ると レースがもっと面白くなる

「水上の挑戦者」に寄せられる反響には、これまでボートレースを知らなかった視聴者からのものが数多くあります。根本さんは、「ボートレーサーのファンになったというご意見をよくいただくのですが、それは私たちも同じです。取材したボートレーサーのその後はとても気になりますね」。小杉さんも、「以前、賞金王決定戦の優勝戦で失格になってしまったボートレーサーを間近で見た時は、その心中を察してショックを受けました。1年後、そのレーサーは見事に賞金王を獲得して名誉を挽回したのですが、たまたま彼の奥さまと一緒に現場でレースを見ていて、あまりにドラマチックな結末に私も涙が止まりませんでした」と語ります。

約4年間にわたってボートレーサーの魅力を追い続けている「水上の挑戦者」。彼らの魅力について根本さんは、「自分の腕だけで勝負している彼らは本当にすごいと思います。もっと早く、この世界のことを知りたかった」と話します。小杉さんも「トップアスリートの生き方は人間ドラマそのもの。まさにその現場に私たちは立ち会っていますし、視聴者の方々も、彼らの姿を目にすれば必ず引き込まれると思います。何よりも、ボートレーサーを知ると、レースがもっと面白くなります」と、ボートレーサーから発せられる強烈な魅力について、目を輝かせて語っていました。



撮影風景。ピットではボートレーサーの緊張が肌で感じられる

## 水上の挑戦者

SG(スペシャルグレード)競走をはじめとするボートレース界のビッグレースに挑む地元選手や今後の活躍が期待される若手選手の生き様や試練、取り巻く家族にスポットを当てて紹介するドキュメンタリー番組。SG競走開催レース場の地元放送局やBS-TBSなどで、2007年5月より2011年1月まで延べ37回放送された。過去の番組は「GyaO!」のwebサイトで視聴できる。<http://gyao.yahoo.co.jp/p/00711/v07118/>



# 観る！食べる！遊ぶ！ 誰もが楽しめるテーマパーク

ボートレーサーが水上で日々熱き戦いを繰り広げているボートレース場。ボートレースの観戦施設という本来の役割はもちろんのこと、近年では快適で楽しい時間を過ごせる場所としても環境が整えられています。そんな全国のボートレース場を、約2年半かけて誌面で紹介した観光情報誌「るるぶ」編集スタッフの千葉和子さんに、ボートレース場の魅力を話していただきました。

観光情報誌「るるぶ」(JTBパブリッシング発行)編集  
(株)JTBパブリッシング メディアコミュニケーション部  
メディアプロモーション課 担当課長 千葉和子さん



## 観光客でも楽しめる スポットとして紹介

爽やかな水面の風景や、美味しそうな料理写真の数々、そして初心者にも分かりやすいレースの説明。観光情報誌「るるぶ」は、これまでに国内24カ所にあるレース場すべてをそれぞれの地域の「るるぶ」誌面で紹介してきました。「るるぶ」を発売する(株)JTBパブリッシング メディアコミュニケーション部メディアプロモーション課担当課長の千葉和子さんによると、ボートレースに注目したのは、地域の観光地を調べる過程でその存在を知ったことがきっかけだったそうです。

「当時、『るるぶ 尼崎市』で最初にボートレース場を紹介することになりましたが、その時に現地で初めて体験したボートレースが本当に楽しくて。これは観光客でも楽しめるレジャースポットだと思いましたし、全国にあるレース場を紹介することで、私が感じたようにその面白さを多くの人に知ってほしいと思ったのです」と千葉さんは語ります。

## 迫力のレースはもちろん 施設やお客さまも魅力

ボートレース場の魅力を、「何といっても目の前に広がる水面と、その向こう側の風景が生み出す開放感ですね。響き渡るモーターの低音も気持ちが良いですし、まさにストレス解消にぴったりです」と語る千葉さん。室内や街中ではなかなか難しい大きな声で応援できる爽快感もお気に入りだそうです。またレースそのものについても千葉さんは、「たとえ舟券を買わ

なくても、間近でスポーツ観戦ができるのは大きな見所。真剣勝負の緊張感は、遊園地でアトラクションに乗るのは質が違いますし、入場料の100円を払うだけでそれを体感できるのはお得ですよ」と話します。

一方で、女性の視点からは場内に設置されている保育ルームの存在も大きいといいます。「家族でレース場に行ったとしても、女性専用ルームや保育ルームがあって、絵本や遊具が用意されているので安心して過ごせますよね。また、高速で水面を疾走するモーターボートは、小さな子どもにも人気があります。しかも、ご主人が運良く舟券を当てられたら、その日の夕食が豪華になるという“おまけ”までつきますから(笑)」と千葉さん。

このように、楽しめるポイントがたくさんあるボートレース場ですが、来場するお客さまとのふれあいも千葉さんには強く印象に残っています。「特に尼崎や住之江のお客さまは、初心者にも気軽に声をかけて優しく教えてくれる温かい方が多いの

です。スタート展示の見方や予想の仕方など、親切にアドバイスしてくれるのが嬉しいですよ」とのこと。施設と、そこを訪れるお客さまによって、個性豊かなレース場の表情が形作られているようです。

## 自分なりの遊び方で 楽しめる「テーマパーク」

取材でスタッフと何度もレース場を訪れるうちに、千葉さんはボートレースには幅広い楽しみ方があることに気づいたといいます。「若いカップル同士なら舟券の買い方で相手の性格が分かって面白いですし、年配の方ならレースの予想という頭脳トレーニングにもなります。また、気が置けない友人たちと日頃のストレスを発散するのも、1人でじっくり楽しむのもすべて自由。人それぞれの遊び方をしっかりと受け入れてくれるのが、ボートレースの大きな魅力ではないでしょうか」と千葉さんは語ります。

迫力あるレースや地元の食材を使った料理が食べられるグルメ、有名なゲストにも会えるイベントなど、実に多くの楽しみ方がレース場にはあります。千葉さんはそれを「ワンコインで入れるテーマパーク」と表現します。「定番の観光地に行っても、意外と時間を持って余ってしまうもの。ボートレースは上限を決めて遊べば、安く上がりますし一日楽しめます。ぜひ気軽に訪れて楽しんでほしいですね」と笑顔で千葉さんは話してくれました。



写真をふんだんに使い、ボートレース場の魅力を伝えた「るるぶ」

千葉さん  
おすすめ  
ベスト3  
全国24あるボートレース場は、どのレース場も魅力的。その中で、千葉さんにあえて選んでいただきました。

## お気に入りのボートレース場

尼崎と住之江のお客さまが大好きなんです。温かく、情に厚い！いろんなことを親切に教えてくれます。住之江はペットが入場できる場所も良いですね。また、多摩川は静水面で、まくり差しが一番決まるボートレース場。レース自体を楽しみたい人におすすめです。



## 景色がきれいなボートレース場

1 BOAT RACE 児島  
瀬戸内海の景色が素晴らしいレース場。明るい日差し、青い海、うっすらと浮かぶ島々など、児島ならではの景色を楽しめます。



2 BOAT RACE 大村  
湖のように静かで美しい大村湾。空と水、2つの青に囲まれたボートレース場。

3 BOAT RACE びわこ  
琵琶湖のほとりに位置するレース場で、雄大な湖面とともに「近江富士」と呼ばれる三上山など、素晴らしい眺望が望めます。

## 好きなキャラクター

ペラ坊の完成度の高さはピカイチ！着ぐるみもかわいい。ツッキーとトまるは、“ブサかわ”の愛すべきキャラクターです。



BOAT RACE 福岡



BOAT RACE 津



BOAT RACE 蒲郡

## 夕日やナイター照明の光を受けて きらめく水しぶき

激しく水しぶきを上げながら全速力で駆け抜ける6艇のボート。水面で争われるレース風景を写真に収めるカメラマンは、ボートレーサーと同様に一瞬のタイミング、シャッターチャンスにすべてをかけています。「2011年BOAT RACEカレンダー」の写真撮影を担当したスポーツカメラマン・高須力さんに、被写体としてのボートレースの魅力についてうかがいました。

### 2011年BOAT RACE カレンダー撮影

スポーツカメラマン 高須力さん

### 気迫やスピード感を 一枚の写真で伝える

「初めてボートレース場を訪れて感じたのは、これはれっきとしたモータースポーツだということですね。そう話すのは、スポーツカメラマンとして活躍し、これまでにサッカーの「2010 FIFA ワールドカップ」をはじめ40種類以上の競技を撮影してきた高須力さん。ボートレースは他のスポーツと比べると、水上で行われるところが一番の特長だそうで、「夕日やナイター照明の光を受けて疾走するボートや、水しぶきがきらめく様子がきれいですね。もちろんレースではスタートから1マークへの迫力ある展開が見所です」と高須さんはその魅力を語ります。「ルールも観ているうちに憶えられるし、分かってくると楽しさが増しますね。ボートが6艇なのもちょうどいいと思います」と続けます。

写真の魅力は、「人間の目に見えないものを瞬間的に切り取る」という高須さん。「レースの展開を追うのが目的なら、モニターでVTRを観るほうが分かりやすいと思いますが、私は、ボートレーサーの気迫やスピード感といった迫力を一枚の写真で伝えたいです」と語ります。

### ファインダー越しに見る レーサーの人間的魅力

ピット内でも行われた撮影では、ファインダー越しに見るボートレーサーの表情も印象的だったそうです。「モーター整備など、精神を集中している作業の時は、声をかけづらいほどの緊張感に包まれていました。その真剣な顔つきや、



逆に他のボートレーサーと談笑する際に見せる穏やかな表情など、彼らの魅力をどのように撮影するかを真剣に考えました」と高須さん。正面や肩越しなど、魅力的に見える角度も人それぞれ異なるため、離れた場所からボートレーサーの姿をじっと観察し続けたそうです。

普段は入れないピット内を垣間見られたことは新鮮な経験だったという高須さん。そして、ボートレーサーを間近に見てそのすごさを改めて感じたといいます。「ボートレーサーは、まさに一流のアスリート。今回私の手がけた「BOAT RACE カレンダー」では、彼らが勝負にかける真剣な思いを、写真で表現できたのではないかと思います」と話す高須さんの眼差しからは、大きな達成感が感じられました。

## 水面で競い合う カラフルな6艇のボート

「どの色、選ぶの?」というキャッチフレーズでお馴染みの、2011年BOAT RACE新CM。賑やかでポップな雰囲気は、ボートレースにあまり馴染みがない人にも印象に残る内容です。今回のCMシリーズの制作を統括したクリエイティブディレクター・小沼恭司さんに、CMの狙いやコンセプトなどをうかがいました。

### 2011年BOAT RACE CM制作

(株)朝日広告社 クリエイティブ第一局  
クリエイティブディレクター 小沼恭司さん

### 「6色から“選ぶ”」コンセプトから カラフルなCMが誕生

南明奈さんが6匹のネコ「アッキーニャ」に扮する2011年のCMシリーズ。プロジェクト全体を取りまとめた(株)朝日広告社 クリエイティブディレクターの小沼恭司さんによると、「6色から“選ぶ”というコンセプトに基づき、ボートレースの当てやすさをアピールしています」とのこと。そのため6艇のボートと6匹のアッキーニャによる、色彩豊かな内容に仕上げました。「それぞれのボートは、このCMのためにオリジナルのカラーリングを特注しました。個性的で形状もカッコいいボートは、素材としてぜひ使いたいと思っていました。私にとって、カラフルな6艇が水面で競い合うのがボートレースの魅力ですね」と小沼さん。作品の全体的なテイストについては、「理論的、ポップ、不条理など、どのタイプの監督を起用するかによって作風は全く異なってきます。前はシリアスな雰囲気でしたが、今回は私の考えていた“誰にでも親しみやすいイメージ”と、監督の世界観がうまくマッチしたと思います」と振り返ります。

### 恋人や仲間と気軽に行ける 魅力的なスポット

今回のCMの目的は、若年層を中心とした新しいファンを増やすことです。そのため小沼さんは、「ボートレースへの関心がない人でも楽しめるエンターテインメント性の高いCMにすることを目指した」そうです。小沼さん自身もこれまでボートレースとは無縁だったそうで、「ボートレースへの思い入れが過剰になりすぎず、客観的な視線を持たせたことが良かったと思



ます」と話します。絵コンテを100案以上も出し、レース場でのロケやスタジオ撮影など、制作には苦労も多かったそうですが、小沼さんは「私が携わったCMの中でもベスト3に入る仕上がりです」と自信に満ちた表情で語ります。

世の中にたくさんのCMが流れている中で、心に残る作品を制作するのは簡単ではありません。小沼さんも、「普通の人々が、普通に反応してくれたら嬉しいです。ボートレース場は、恋人や仲間とも気軽に行ける楽しくて魅力的なスポットだと思いますよ」と話します。実際に、CMを見てボートレースに行ってみたいという若い人が周囲にも増えてきているそうです。



アッキーニャの衣装のデザイン画と絵コンテが描かれた企画書

### アッキーニャ WEB 好評公開中!

[akkinya.jp](http://akkinya.jp)

公開中の「アッキーニャ WEB」では、CMのメイキング映像や6匹のアッキーニャのプロフィールが見られるほか、オリジナルのゲームを楽しむことも可能。最新情報が続々とアップされていて、携帯電話やスマートフォンからもアクセスできます。テレビCMの放送が始まってからは、アクセスも急増しているそうです。



第7回  
**HOPE!**  
無限の可能性を秘めた  
スター候補★

# 勝利だけでなく レース内容にもこだわりたい

近年活躍が目覚しい福井支部に所属し、将来を嘱望されている松田選手。  
偶然にも、松田選手が生まれた1986年は  
植木通彦氏がボートレーサーとしてデビューした年でもあります。  
今回は、植木氏との対談を通じて、松田選手の活躍の背景や  
将来に向けての課題などを話していただきました。



スター候補選手 登録番号第4391号(福井)

**松田祐季** 選手  
Yuki Matsuda

**植木通彦** 氏  
Michihiko Ueki

## 予想以上に厳しかった やまと学校の訓練生活

**植木** 北陸出身の松田選手ですが、寒さにはあまり強くないそうですね。子どもの頃はどのような毎日を送っていましたか。

**松田** 雪国は暖房が効いているので、かえって寒さに強くない人が多いです。ただ小さい頃は、冬場でもよく雪合戦などをして元気に遊んでいました。体を動かすことが好きで、中学までは水泳、そして高校に入ってから野球と、スポーツに励んでいました。

**植木** ボートレーサーになろうと思ったきっかけは何だったのでしょうか。

**松田** もともと体を使う仕事をしたいと思っていて、高校3年生の時に知り合いの方からボートレースの存在を教えたのが最初です。その後、初めて生でレースを観戦したのですが、モーター音やスピードなどの迫力に驚きました。そこで、改めてプロのボートレーサーになりたいという気持ちが強まりました。

**植木** やまと学校には、初めての受験で合格したそうですね。訓練生活は大変でしたか。

**松田** 厳しさは予想していましたが、やはり入学してからの苦労は多かったです。特に、不定期に呼び出しがかかる「非常呼集」という訓練は、就寝後に起こされることもあるため慣れるまで大変でした。

**植木** あれは緊急連絡事項の発生などに備えて、その対応力を養うための訓練です。私も訓練生時代に経験し当時は苦しかった覚えがありますが、今では良い思い出になっています(笑)。

## 相手が誰であっても 気持ちでは負けたくない

**植木** やまと学校を2006年に卒業し、念願のプロレーサーとして選手登録された松田選手。デビュー戦は見事に2走目で初1着を獲っていますね。

**松田** はい。しかしあの結果は偶然に過ぎなかったと感じています。訓練生時代から自分の力ではプロで通用しないと思っていて、デビューしてからも「技術も精神力もこのままではダメだ」と思い続けていました。

**植木** 自分に厳しい松田選手ですが、その後着実に力を付け、若手レーサーの中でも頭角を現してきています。最近の走りで見事だったのは、2010年1月に地元・三国で行われた初夢賞。福井支部のそうそうたる顔ぶれの中、堂々とした走りで見事な優勝を果たしましたが、先輩方を前に緊張はしませ

左から2番目が松田選手



## 松田選手の 生い立ち、プロレーサーになるまで

明るい性格で、大勢の友達と一緒に毎日外を駆けまわる少年時代だった。手先が器用だったため、家をつくることのできる大工にずっと憧れていたという。高校は県内の進学校に通っていたが、体を生かせる職につきたいと考えようになった。高校3年の時、知り合いからボートレースの存在を覚えてもらい、レーサーの道を目指すようになる。

やまと学校には最初の受験で見事に合格。分単位で厳しく時間を管理される訓練生活は、慣れるまで戸惑い続けた。その一方で、周囲への気配りなど団体生活の基本を学んだことが思い出に残っているという。2006年3月に選手登録。同年5月にデビューを果たす。

んでしたか。

**松田** 相手が誰であれ、いつも気持ちでは負けまいと心がけています。だから気負いもありませんでした。自分は挑戦者の立場だったのでスタートだけに集中し、うまく1マークで先頭に出られました。レース展開にも恵まれた幸運な優勝だったと思います。むしろ、その前に行われた準優勝戦のほうがレース内容には手応えがありましたね。

**植木** その準優勝戦も優勝戦と同じ3コースからの勝利でしたね。どのような手応えがあったのでしょうか。

**松田** ターンの感触が良くて、スタートからゴールまで攻めるレースを貫徹できた点です。レースを作ることができた一走でした。ただ、3コースが得意というわけではなく、むしろ2コースと並んで苦手意識があります。

**植木** 松田選手に限らず、2・3コースが苦手なレーサーは多くいますが、どのコースでも私が大切だと思っているのは「間」です。レーサーの技量が全体的に上がっている現在では、この「間」を上手に取ることがカギ。レバーやハンドルなど操縦技術のマニュアル化が進んでいますが、一方でレーサー各人の工夫が必要です。



### 松田選手の プロレーサーとしての活躍

2006年5月、ボートレース三国でのデビュー戦1走目は6着に終わるが、翌日の2走目では見事に1着でゴール。翌2007年には初優出を果たし、2008年9月には念願の初優勝を飾る。「必死だった」とプレッシャーがかかる中で、コンマ00のタッチスタートから見事な優勝だった。初1着、初優出、初優勝はいずれも三国で記録しており、地元での強さが光る。2011年3月7日現在の通算成績は勝率6.10、優出26回、優勝6回。GI競走には81回出走。

松田 駆け引きや一瞬の時間差をつかむことが重要ですね。実戦を通じながら、もっと学んでいきたいと思っています。

### 目先の結果だけでなく 半年後、1年後を見据えた努力を

松田 私はレースに入る時に気持ちが浮ついてしまう時がありますが、集中力を高めてレースに臨むためにはどのようにメンタルを管理すれば良いのでしょうか。

植木 たとえばボートレース場の中と外で服装を変えるなど、オンとオフの切り替えが必要だと思います。フライングをしないとか事故を起こさないとか、そうした強い意志を集中力の土台にしつつ、切り替えのきっかけを自分でつくれば良いと思います。

松田 植木さんは現役時代、人一倍たくさんの準備をしてレースに臨んでいたそうですが、その努力は苦痛ではありませんでしたか。

植木 準備や努力を当たり前のこととして楽しめれば苦にはならないものです。私の場合は、プロペラ調整や練習走行など、一つひとつ確認することが「安心感」につながっていました。お客さまのためにも、不安を残したままレースをしたくな



松田祐季選手  
Yuki Matsuda

1986年4月25日生まれ。福井県出身。  
福井支部所属。身長166cm、体重53Kg、  
血液型O型。登録番号第4391号、A1級。

かったのです。私の場合その不安を取り除くには、家族や友人との会話のような日常のできごとを思い出したりすることが、レース前の重圧を撥ね除けるのに役立ちました。ですから、良いパフォーマンスは人に支えられることで発揮できるといえるかもしれません。

松田 すごく大きなヒントをいただいた気がします。ただ、努力をしてもすぐに順位や勝利などの数字につながるとは限らず、なかなか難しいことだと感じています。

植木 レーサーには、結果にこだわる人と内容を重視する人の2つのタイプがあります。私自身についていえば、結果や数字に執着している時というのはスランプに直面している時。内容に満足した走りができている時は、結果もついてくると考えています。

松田 私も以前は数字にこだわっていましたが、最近はレー

ス内容が良ければたとえ3着や4着でも納得できるように意識が変わってきました。

植木 もちろんプロですので数字は大切です。しかし日々の努力は目先のレース結果だけではなく、半年後や1年後のレースにも影響を与えることを忘れてはいけません。だから成果の有無にかかわらず努力を継続することが重要です。しかも、各レーサーが懸命に努力している中で、同じことを繰り返すだけでは数年後に取り残されます。そのため、将来を見据えて練習内容にも変化を取り入れることが不可欠です。

### 大舞台で活躍する 先輩プロレーサーを励みに

植木 2010年は北陸勢の活躍が目立った年でした。特に、年末には同郷の先輩でもある中島孝平選手が初の賞金王に輝いたことで話題になりましたね。あのレースはどこで観戦していましたか。

松田 ちょうど、ボートレース浜名湖で中継を観ていました。妥協せずに努力する中島選手の姿を間近で見てきたので、優勝の瞬間は本当に嬉しかったです。自分以外のレースで感動したのは初めてのことでした。

植木 北陸のレーサーは昔から粘り強さに定評があります。全国的なスターでもある今垣光太郎選手も毎年素晴らしい実績を残していますし、地元の先輩方が活躍する様子は大きな励みになるのではないのでしょうか。松田選手にとってファンの皆さまはどのような存在ですか。

松田 いつも応援していただいてとても力になる存在です。自分が中島選手のレースを観て感動したように、ファンの方にも感動を与えられるようなレースをしたいと思っています。また、今垣選手のように、ファンの皆さまから愛されるようなレーサーを目指していきたいです。

植木 地区スター候補でもある松田選手は、若手レーサーの代表としても期待が高まりそうですね。

松田 スピード感と迫力のあるレースを心がけて、より多くのお客さまに自分の名前を憶えてほしいです。そして、SG競走のような大舞台でも活躍できるように、少しずつ前進していきたいと思っています。



### 松田選手との対談を終えて……植木通彦

レースに対して真摯に向き合い、意識を高く保ち続けている松田選手。今最も勢いがある北陸地区のスター候補選手ということで、これからますます注目されるでしょう。周囲にいる偉大な先輩レーサーからは、技術面だけでなくレースに臨む考え方などを学んで、良い刺激を受けてほしいと思います。まだ24歳と若いので伸びしろも十分あります。思い切ったチャレンジをして飛躍する姿を、ファンの皆さまにも見せてほしいと思います。



植木通彦氏  
Michihiko Ueki

1968年4月26日生まれ。福岡県北九州市出身。O型。登録第3285号。「艇王」「不死鳥」として知られる。通算成績は4,500走1,562勝。勝率7.58。優勝74回。2007年7月に現役を引退。

このコーナーではポートレースを様々な分野で支えているプロフェッショナルにご登場いただき、その仕事の内容や役割についてご紹介します。

# 全国24カ所のポートレース場へレーサーを公平に、くまなくあっせん

日本モーターボート競走会  
あっせん業務



①作業は基本的にパソコンで行う。ソフトには頼らず地道な手作業が続く ②パソコン画面に表示されるレースの開催日程を見ながら、ポートレーサーをレース場へ振り分けていく ③あっせんを担当する3人。左より辻悠矢さん、生水有さん、石川和貴さん ④“理想のあっせん”に少しでも近づけるように、常に話し合いながら調整していく

ポートレースは、全国24カ所あるレース場のどこかで、毎日開催されています。そのレースに出場するポートレーサーは、出走日程や出場メンバーに偏りが生じないよう、(財)日本モーターボート競走会により公平に“あっせん”されています。約1,500名のレーサーを公平に、くまなくあっせんする仕組みや担当者の心構えをうかがうため、同会業務部あっせん課を訪ねました。

## レースの公正さを支えるあっせんの意義

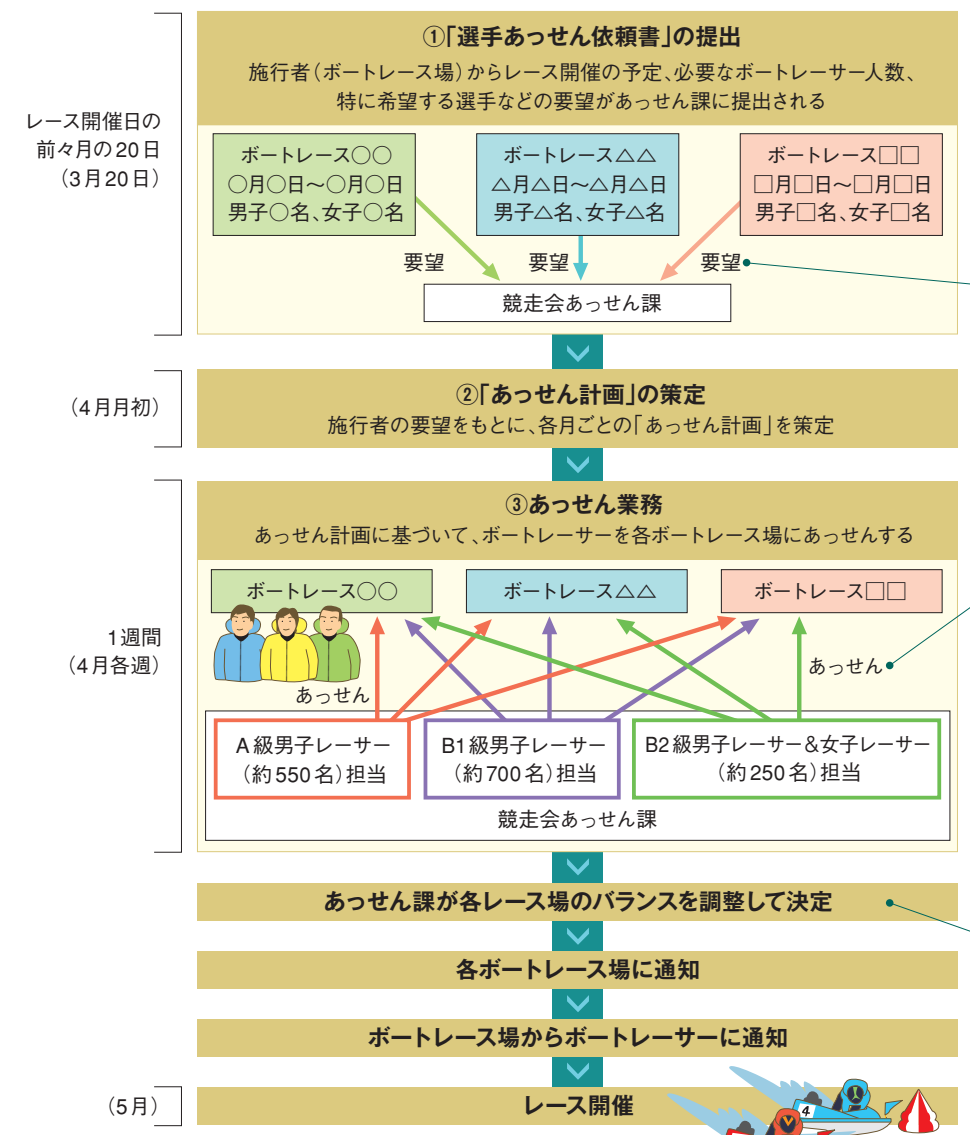
「ポートレースは、全国各地からポートレーサーが各ポートレース場へ集い、日々熱き戦いを繰り広げています。しかし、どのポートレース場に誰が出場するのかは、レースを開催する施行者やレーサー自身では決めることはできません。レーサーは競走実施機関である(財)日本モーターボート競走会によりあっせんされて、初めて出場可能になります」と話すのは、レーサーのあっせんを行う同会業務部あっせん課の石川和貴さん。そもそも、レースの「開催日程」は、各ポートレース場における施行者が独自に設定します。開催日程が決まると施行者は、それらの開催に必要なレーサーの希望人数を記入した書類をあっせん課に提出します。こうして全国の施行者から送られてきた情報をもとにして、あっせん課では出場するレーサーを各場の開催に過不足なくあっせんしていきます。「あっせんするにあたっては、A級レーサーが1カ所に偏ったり、一部のレーサーだけが多忙になったりといった不公平がないように全体のバランスを整え、約1週間かけてあっせんを組み、最終的に一覧表を施行者に送付します」と話すのは同課の辻悠矢さん。公正なレースを実現するには、各レーサーを公平にあっせんすることも大事な要素です。

## 施行者やレーサーの希望も考慮しつつバランスを調整

あっせん課では現在、茅野知宏課長代理のもと3名の職員が業務に取り組んでいます。A(A1、A2)級男子レーサー、B1級男子レーサー、B2級男子レーサーおよび女子レーサーと、3つのグループに分けてそれぞれが担当。1人の担当者が扱うグループのレーサーは数百人にのぼりますが、辻さんや石川さんはあっせん業務で使用するため、ほぼ全員の選手登録番号を暗記しています。「毎日のようにレーサーの情報とにらめっこしていますので、自然と憶えてしまいますね」と石川さん。あっせんは、様々な制限や条件を検討材料にしながらいります。たとえば、レースの中止・順延も考慮して出場する開催と開催の間隔を適切に空けるという原則や、同姓のレーサーを同一開催に多数あっせんしないといった原則などが数多くあるほか、フライングによりその開催には出場できないレーサーがいるなど約1,500名いるレーサーの個別の制約もあり、あらゆる情報を加味しなければなりません。級別によっても注意点は異なるようで、「たとえば、A級レーサーは出走する日数が多いため、同一レース場へのあっせん間隔が短くならないように一段と留意する必要があります」とA級を担当する辻さんは話します。あっせん作業の最終段階として全体のバランスを調整

開催予定が書き込まれた表。各自で工夫をこらした一覧を作成し、開催レースを把握している

## ポートレーサーがあっせんされるまで



選手あっせん依頼書

施行者からくる要望は「〇〇日～〇〇日に〇〇名のポートレーサーが必要」という、大枠を示したもの。

あっせん課ではA級(A1、A2)男子、B1級男子、B2級男子&女子の各級から、どのポートレース場に何名レーサーをあっせんするか計画を立てる。

競走場	丸亀	サイター開催	2993	3003	3013	3023	3033	3043	3053	3063	3073	3083	3093	3103	3113	3123	3133	3143	3153	3163	3173	3183	3193	3203
開催日	2011年4月12日～2011年4月17日																							
施行者	丸亀市 1回2部																							
司馬	川島																							
観衆種別	一般観衆																							

あっせんの一覧表

※( )内は5月にレースがある場合の大まかなスケジュールの目安

する際には、特に高い集中力が求められるといえます。1年間を通じたあっせん業務の中でも、正月やお盆に開催されるレースは最も気を遣う期間だそうです。石川さんによると、「まず、これらの期間はすべてのレース場で開催があるので日程がタイトです。加えて正月やお盆は地元での出走を希望するレーサーが多く、施行者とレーサー側とのバランス調整が非常に難しいです」とのこと。また、企画レースなどでは変則的な出場レーサーのあっせんが要求されるケースがあり、これにもできるだけ対応しますが、あくまでも公平性を保つことが大前提。様々な要望を加味した調整には締め切りのギリギリまで悩み続けてしまうそうです。

## 自動化に頼らず、手作業で理想のあっせんを目指す

このように膨大な量の情報を扱うあっせん業務は、コンピューターソフトによって自動的に振り分けていくのが理想的とも思えます。そのようなソフトも開発されていますが、あっせん課では一連の作業のすべてをソフトで組んでいるのではな

く、併用しながら最終的な調整は手作業で行っています。すべてをコンピューターソフトに頼らない理由について石川さんは、「レーサーの情報はデータベースに入っています。しかし、あっせんという作業は毎週単独で完結するものではありません。企画レースや希望選手の依頼を加味したうえで、前月や前々月からの組み合わせや流れ、連続性をイメージしながら組み立てていきます。コンピューターソフトによるあっせんではレーサーの配置や連続性が加味しにくく、細かな調整となるとデータベース以外の様々な要素を意識しなくてはならないことが多いです」と話します。そんなあっせん課が考える理想的なあっせんについて辻さんは、「24あるレース場の施行者と約1,500人のレーサーの全員に納得してもらえる組み合わせが理想です。しかし、そのようなあっせんを行うのは不可能です。それでも、できる限りその理想に近づけていくために、ギリギリまで調整を行う。それがあっせん課の任務です」と言い切ります。石川さんも、「バランスの調整には終わりがなく、それがこの仕事の難しさともいえます。公平・公正なレースの実現に向けて気を緩めることはできません」と引き締まった表情で話していました。





**日本財団**  
The Nippon Foundation

●日本財団に関する情報はこちらから

➔ <http://www.nippon-foundation.or.jp/>

●日本財団会長 笹川陽平ブログ

民の立場から公への貢献をモットーに内外の現場で公益活動を実践。年の三分の一を海外活動に充て、海外情勢や時事問題など多角的視点から情報を発信しています。



➔ <http://blog.canpan.info/sasakawa/>



## **BOAT RACE びわこ**

琵琶湖のほとりに位置するボートレースびわこは、雄大な湖面とともに「近江富士」と呼ばれる三上山や遠くにお花畑で有名な伊吹山など、素晴らしい眺望が望めます。場内には無料で利用できる量敷きの「シルバー席」(2階)やレディース席(3階)があり、気軽にレース観戦ができます。また、フク(牛の肺)を甘辛く煮込んだ定番メニュー「ホルモンうどん」など、地元の食材も多数味わえます。

**ADDRESS** ● 〒520-0023 滋賀県大津市茶が崎 1-1

**ACCESS** ● 徒歩：京阪電車浜大津駅より約12分。京阪電車三井寺駅より約10分。無料バス：JR大津駅より約7分、大津京駅より約5分。車：名神高速道路・大津インターより約15分。

### ピナちゃん

ボートレースびわこのマスコット。ピワコオオナマスは琵琶湖だけにすんでいる日本で最大のナマスです。成長すると全長120cm、体重20kg以上になります。1983年8月にピワコの「ピ」、ナマスの「ナ」とって「ピナちゃん」になりました。



IS 563662 / ISO 27001 : 2005

◆ 「ISO/IEC27001:2005」を認証取得

BOAT RACE振興会は、2010年7月25日付で、全部門を対象とした情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)の国際認証基準「ISO/IEC27001:2005」を認証取得いたしました。



〒108-0073 東京都港区三田 3-12-12 笹川記念会館 TEL.03-5232-2511 FAX.03-5232-2519

BOAT RACE 振興会HP ➔ <http://www.kyotei-pr.jp/>

BOAT RACE オフィシャルweb ➔ <http://www.kyotei.or.jp/>